

1枚目は申請書の顔となる最も重要なページ！

このページは留学計画書の最初のページであり、トビタテ申請(書面審査＝一次審査)に当たって最も重要な部分である。このページにサッと目を通しただけで以下の2点が明確に、断定的なトーンで、専門外の人に目にもわかり易く明示されていることが重要である。

- ① 将来の夢もしくは目標(なりたい人物像、キャリア目標、産業界への貢献、など)は何か？
- ② その為に何処に行つて何をどのくらいの期間、学修し、実践して行くのか？

留学計画書の残り(2～3ページ)は、この1ページで述べられていることの詳細な説明に過ぎないため、上記の2点が効果的に明示されて審査委員に効果的にアピールできないと残りは読まれない、と考えても良い。

| | |
|-------|--------------|
| 申請コース | |
| 設置形態 | 都道府県 国内大学等名称 |

平成29年度官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～留学計画書 (オンライン申請準備用)

1. 応募者基本情報

| | | |
|------|---|---------------------|
| 氏名 | 姓 | 名 |
| フリガナ | | |
| ローマ字 | | |
| 国籍 | | 性別 |
| 生年月日 | | 年齢 (平成29年4月1日現在) |

写真
(4×3cm)

写真データを
貼付してください。

※必須

【自動計算】
年齢、学年ともに平成29年4月1日現在のもの

以下の4点を満たした爽やかで元気があ
る印象を示す顔写真を用意すること。
①背景:白地(審査員は白黒印刷を査読
するため)
②服装:ビジネスカジュアル以上
③表情:笑顔
④髪型:できるだけ顔に髪がかからないよ
うにする。

| | | | |
|--|--------------------|-----------------------|---------|
| (1)在籍大学等での情報(応募時現在) | | | |
| 所属系統 | 所属学部/研究科/学科/専攻/コース | | |
| 課程 | 学年 | 年 | 卒業予定年月日 |
| (2)進学先情報※平成29年4月以降に他大学等に進学・転学予定の場合大学等名を記入→ | | | |
| (3)卒業高校等の情報 | | | |
| 国/都道府県 | 設置形態 | 高校等名 | |
| (4)過去の海外経験 | | 海外初チャレンジ応援枠 | |
| 留学、旅行の行先や時期に加え、その経験を通じて何を学んだかにも言及する。 →海外経験や異文化体験がない場合: ・空白のまま提出することのないよう。 ・興味を持ったり行く予定があった場合にはなぜ実現しなかったのか言及する。 「これまで機会に恵まれなかったが海外経験に非常に熱意はある」という点を強調するなど工夫する。 例: 2009.2(5日間) アメリカ旅行(スタンフォード大学見学)、2012.8(2週間) 英国 オックスフォード大学のサマースクールへ参加、2014.8(7週間)九州大学サマー コース参加、チューターとして留学生の生活面のサポートをした。この経験を通 じて様々な留学生と交流する事ができ、お互いの文化を知る上でとても有益だ った。 | | この枠で応募を希望する場合は「1」を記入→ | |

留学終了年月日以
降の日付を記入(休
学して留学する場
合は復学後、実際
に卒業する年月日
を記)

このページはA4片
面1枚にて作成し
、フォームは一切変
更しないでください
。文字フォントは
、11ポイント以上
です。印刷・PDF
にする際に文字
が表示されるよう
に文字数を調整し
記載してください。

海外初チャレ
ンジであっても、こ
の枠への応募は
任意です。ここへ
のチェックは必
須ではありません

2. 留学計画の概要

| |
|---|
| (1)留学計画のタイトル |
| 簡潔で留学目的を的確に示すタイトルを記す。下記(2)留学計画の目的と概要の項目と並んで最も重要な部分である。 「将来の目標(目的)」「どこで何を学び実践する(手段)」の両方が端的に含まれたタイトルが望ましい。 「将来の目標(目的)」を主題、「どこで何を学び実践する(手段)」を副題にするとうまくいく。 トビタテの趣旨である「実践性」のニュアンスが含まれると尚良い。「～を實踐し日本の～を担う」のようなストレートさが望ましい。 ※表現は自信を持って!(×～したいと思う ×～を目指す ○～する ○～になる) 例: ○○界のグローバルリーダーになる!～フランスでの留学とインターンを通じて～ ○○へ画期的な貢献 —アリゾナの○○で○○を習得する— |
| (2)留学計画の目的と概要(実践活動部分には、下線をひいてください) |
| 下記の内容を以下の順番で押さえる: ① 留学の目的=将来の人物像もしくは目標(どの様に産業界または社会全体へ還元・貢献していく人物になりたいのか) ② 学修活動内容(どこの国のどの留学受け入れ先機関で学修し、どのような知識を習得するのか、学部またはプログラム名など) ③ 実践活動内容(どのような実践経験を積んでくるつもりか、インターンシップや自己企画の活動など) ④ 留学計画(学修・実践活動)の正当性(なぜ②と③が①の為に必要もしくは適切なのか) ⑤ 留学後の希望(留学後、または将来どの様に産業界への貢献もしくは社会全体への還元をするつもりか) ——ここでは「～に就職して」や「～のキャリアを通じて」など具体的な職業名を挙げて論じると効果的。 【注意点】 ・ 特定の学術分野や産業界固有の高度な専門用語の使用を避ける(書類審査側は申請者の専門分野に詳しいとは限らない)。 ・ 効果的な写真や図表があると審査側も目を引かれる。 留学先の国や受け入れ先機関、あるいは実践活動内容を示す(あるいは 象徴する)適切な写真か図表があれば1点挿入する。 ・ 指示されている通り、「実践活動」に該当する部分には、必ず下線を引くこと。 |
| 以下、留学計画に含まれる実践活動の内容にあてはまるものに数字の「1」を入力してください。(複数選択可) ※支援企業コラボインターンは、企業名を記入 |
| ① <input type="checkbox"/> ←インターンシップ(無給) ② <input type="checkbox"/> ←インターンシップ(有給) ③ <input type="checkbox"/> ←ボランティア ④ <input type="checkbox"/> ←PBL |
| ⑤ <input type="checkbox"/> ←フィールドワーク ⑥ <input type="checkbox"/> ←支援企業コラボインターンシップ 企業名: _____ ⑦ <input type="checkbox"/> ←その他 |

●実践活動について
トビタテ！留学JAPAN
日本代表プログラム
では、座学や知識の
蓄積型ではなく「実社
会との接点をもつ」実
践活動が含まれる留
学による多様な学び
を重視し、学生が自
ら定めた明確な目的
と意欲的な目標に基
き立案した実践活
動の含まれる留学計
画を支援します。
実践活動に関しては
、留学先機関の確定
有無よりも、計画内
容が留学の目的に沿
っているかどうかを重
視します。

(3)申請コース選択の理由

何故、このコースを希望するのかを記入する。トビタテ募集要項に記載されている各コースの概要を考慮する。
例: この留学計画の目的は○○であり、それに○○コースが適しているから。
○○を支援する○○コースに留学計画の目的が合致するから。

学修・実践活動計画を含んで、留学全
体の期間が2年以内であることを確認
すること。渡航日・帰国日は記載し
ない! プログラム開始日・終了日
を記入するこ

| | | |
|-----------|-------|---------|
| (4)留学計画期間 | | |
| 開始年月日 | 終了年月日 | 卒業予定年月日 |

日付形式で入力してください

●実践活動について

- (1) 諸外国の受入れ機関情報: 受入れ機関名は必須ではありません。受入れ機関名を記入する場合は、予定・希望でも構いません。また、国や都市名は記入をお願いします(奨学金の支給額が国や都市により異なってくるため)
- (2) 留学期間中のスケジュール: 受入れ機関名は必須ではありませんが、期間、国・地域、主な活動は記入をお願いします。基本的に、応募後の期間延長による奨学金の増額は認められませんので、応募時に実践活動予定時期は計画に入れてください。

| | | |
|-------|---------|-------|
| 申請コース | 国内大学等名称 | 応募者氏名 |
|-------|---------|-------|

3. 受入れ機関情報及びスケジュール

(1) 諸外国の受入れ機関情報(受入れ機関名は予定・希望でも構いません)

| | | 機関1か所目 | 機関2か所目 | その他機関 |
|--------------------------------------|----------|---|--------|-------|
| 第1希望 | 国・地域 | 【記入の注意点】 ①受入れ機関は時系列順に記載すること。 ②機関名は「未定」でも構わないが、決まり次第「変更届」を提出する ③受入期間が4つ以上ある場合、「その他機関」に3つ目以降を工夫して書くこと | | |
| | 都市名 | | | |
| | 機関名(英語) | | | |
| | 機関名(日本語) | | | |
| | 受入機関URL | | | |
| ※世界トップレベルコースのみ記入必須 ランキング等出典名及びURL | | | | 順位 |
| 第2希望 | 国・地域 | | | |
| | 都市名 | | | |
| | 機関名(英語) | | | |
| | 機関名(日本語) | | | |
| | 受入機関URL | | | |
| ※世界トップレベルコースのみ記入必須 ランキング等出典名及びURL | | | | 順位 |

第2希望以降の受入れ機関を設定する理由、及び第3希望の受入れ機関情報
 「第一希望が不合格のときのため」などネガティブな表現は避ける。「第一希望が理想だが、第二希望も〇〇の分野で世界的に高い評価を受けており、留学・将来目的の達成ができる」という内容が望ましい。

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 受入機関URL | ※世界トップレベルコースのみ記入必須 ランキング等出典名及びURL |
|---------|--------------------------------------|

(2) 留学計画期間中のスケジュール(一時帰国期間含む) 留学月数 #### か月

| 年月 | 留学先機関 | 国・地域 | 主な活動 |
|----|-------|------|------|
|----|-------|------|------|

【自動計算】
年月は自動で反映され

- 【記入の注意点】**
- ①1ページ目の「(2) 留学計画の目的と概要」で述べられている内容と、ここでの活動計画が明確に合致(目的に適った活動を目的に適った場所で)させておく必要あり。
 - ②スペースが許す限り(学修)か(実践)もしくは(学修・実践)といったラベルを付け加える。
例)環境学理論の講座履修(学修)
関連企業の方々に向け研究発表の場を設ける(実践)
⇒学修と実践は半々か実践の項目が多くなるように調整することが好ましい。
 - ③複数の機関に所属する場合でも1行に記載する。
※入力の関係上見えづらくなっても問題ないとのこと
※1か月のみの計画の人も1行に収める

(2) 留学計画期間中のスケジュール(一時帰国期間含む) 留学月数 6 か月

| 年月 | 留学先機関 | 国・地域 | 主な活動 |
|----------|--------------|-----------|-----------------------|
| 平成28年10月 | 〇〇〇大学 | Z121ベトナム | △△△の授業を履修(学修) |
| 平成28年11月 | 〇〇〇大学 | Z121ベトナム | □□□の授業を履修(学修) |
| 平成28年12月 | ABCDコンサルティング | Z121ベトナム | 新興国のマーケット調査(実践) |
| 平成29年1月 | 一時帰国 | 一時帰国 | 日本で行われる☆☆マーケット戦略会議に出席 |
| 平成29年2月 | 未定 | Z104カンボジア | 新興国のマーケット調査(実践) |
| 平成29年3月 | ABCDコンサルティング | Z121ベトナム | 新興国のマーケット調査のプレゼン(実践) |

(3) 授業料申請予定 ※第1希望の計画で授業料が発生するかどうかを記入してください ※見込みでも構いません。なお、こちらで「無」を選択された場合、採用後に授業料が発生しても支給には認められません

(4) 本制度以外に受給予定(申請書に申請書中含む)の給付型奨学金や給与等の報酬について ※全て記入

| | |
|---------------------------|---|
| 受給予定(希望)の給付型奨学金、給与等の報酬の有無 | 円 |
| 形態 | |

- 【記入の注意点】**
- ①大学間協定校、部局間協定校に交換留学する場合は「無」。
※交換留学でも授業料がかかる大学に行く予定の学生は「有」を選択。
 - ②第2希望で授業料が発生する場合は支援対象外になるので注意!

●大学ランキング
 以下のような世界大学ランキング例で100位以内に位置する大学や、同等の教育レベルにある研究機関(特定の分野に係るものを含む)

(参考)代表的なランキング

- QS World University Rankings2014/15 (クアクアレリ・シモンズ社)
- World University Rankings 2014-2015 (タイムズ・ハイヤーエデュケーション)
- The 2014 Academic Ranking of World Universities (上海交通大学)

このページはA4片面1枚にて作成し、フォーム及び文字フォント設定は一切変更しないでください。印刷・PDFする際に文字が表示されない場合がありますので表示されているかどうか確認してください。

(6)期待できる学修・実践活動の成果の活用

留学後、大学在学及び卒業後にどのように成果を活用するかを記入してください。

応募要項に記載のあるとおり、多様性人材コース以外のコースは、将来的に産業界を中心に活躍する意欲のある学生を支援することとなっています。産業界を中心とした活用イメージ、キャリア等を可能な範囲で記入してください。在籍課程や年齢により具体性は変わることは勘案します。

| | | |
|-------|---------|-------|
| 申請コース | 国内大学等名称 | 応募者氏名 |
| | | |

このページはA4片面1枚にて作成し、フォームは一切変更しないでください。文字フォントは、11ポイント以上です。印刷・PDFする際に文字が表示されない場合がありますので表示されているか確認してください。

(5)学修の成果及びその測定方法
 以下、学修の成果及びその測定方法の内容にあてはまるものに数字の「1」を入力してください。(複数選択可)

① ←成果発表(論文、作品等) ② ←単位・学位取得 ③ ←その他

留学計画の学修・実践活動の内の「学修」の部分について論じる。
 留学目的達成の為にどのような学修・実践活動をするかについて、「～に関する講座を履修する」「～の研究発表を経験する」のように論じる。実践活動のみの場合、その活動を通じて得られる学びや学修の成果を論じる。
 成果の測定方法は、「～に関する講座をいくつ履修する」「～の分野で～単位取得する」「～回以上の研究発表を無事にこなす」のように、できるだけ数値に落とせる形で論じる(数値を挙げることで客観性を持たせる)。
 6行を目安に記述すること。

(6)期待できる学修・実践活動の成果の活用

インターン活動、留学先での活動をどのように活用できるのか、以下の2点について述べる
 ①留学目的(～の分野で日本を代表する力を養う等)の追及や達成の為にいかに活用できるか。
 ②特定の産業界への還元もしくは社会全体への貢献にいかに関与できるか。
 ※ここで求められているのは、「期待できる」成果の活用であり、確約ではない。
 現実的な論点は必要だが、実現の可否はあまり心配せず、希望的観測に基づいて論じればよい。
 ⇒出来ない場合を考えるのではなく、受入先などは決まっている前提で書く。
 “短期的活用”(留学後3～4年の間で“学内”“地域”などでの活用)“長期的活用”(社会人になってからの活用、例)経験を活かして〇〇界でリーダーシップを取る)、あるいは、“地域”“日本社会”“世界”に対する還元・貢献に分けて記述するのも効果的。
 8行を目安に記述すること。

具体的なビジョンを述べる!

4. 留学計画の実現可能性

(1)留学計画の実現のための取組

留学計画を実行に移す為に、これまで行ってきた準備や留学に役立つと思われる経験について記述する。
 例: 言語習得に向けての活動や経験(TOEFLのスコア向上の為に特別授業の受講など)
 留学先の母国語の習得に向けての活動や経験
 プレゼンテーション技術向上の為に訓練等

(2)参加予定プログラム

以下、参加予定の留学プログラムであてはまるものに数字の「1」を入力してください。(複数選択可)

←在籍大学等の交換留学 ←在籍大学等のダブル/ジョイントディグリープログラム ←在籍大学等の留学プログラム(交換留学以外)
 ←在籍大学等以外の機関による留学プログラム ←留学プログラムに参加しない

参加予定プログラム名

(3)語学能力試験、資格等の点数・結果

| | | | |
|----|--|-----|--|
| 英語 | | その他 | |
|----|--|-----|--|

大学間協定校の場合、「大学間協定校への交換留学」と記載する。
 部局間協定校の場合、「部局間交流協定校への交換留学」と記載する。

(4)派遣留学生の要件

以下、要件を満たす必要があることを確認したら「1」を選択してください。※空欄がある場合は申請できません。

- ① 日本国籍を有する又は日本への永住が許可されている。
- ② 本制度で実施する事前・事後研修及び留学生ネットワーク(支援企業等に対する留学計画や活動報告・成果等の情報の提供を含む。)に参加する。
- ③ 日本の大学等において、卒業又は学位取得を目的とした課程に在籍する。
- ④ 日本の在籍大学等が派遣を許可し、留学先機関が受入れを許可する。
- ⑤ 原則として、機構の第二種奨学金に掲げる家計基準を満たす。 ※家計基準を満たすか満たさないかは在籍大学等に問い合わせてください。
- ⑥ 留学に必要な査証を確実に取得し得る。
- ⑦ 留学終了後、日本の在籍大学等で学業を継続又は学位を取得する。
- ⑧ 平成29年4月1日現在の年齢が30歳以下である。
- ⑨ インターンシップ等での報酬や他団体等から留学のための奨学金を受ける際には、その平均月額が、本制度による奨学金の支給月額を超えない。
- ⑩ 本制度の第1～5期派遣留学生でない。
- ⑪ 平成29年4月1日から平成29年10月31日までの間に諸外国において留学が開始される。(渡航日は含まず)
- ⑫ 留学期間は28日以上で、2年以内である。 ※3か月以上推奨(海外初チャレンジ応援枠は除く)
- ⑬ 留学先における受入れ機関が存在している。 ※受入れ機関が存在しない学生個人の活動等は認めません。
- ⑭ 留学計画に実践活動が含まれている。
- ⑮ 在籍大学等が計画内容を学修活動と認めている。

記述は必須。2ページ分フルに活用すること！また、文頭の余白欄に必ず氏名を明記する。

※文頭の余白欄に

**「第6期トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム ○○(※申請コース)
九州大学○○学部○○学科○年○○(※申請コース名)コース 九大 太郎」**

①～④の比重として、「①留学によってどんな自分になりたいのか」と「③トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラムに対して自身が貢献できると考えること」が残りの部分より(文字数として)大きいのが適切。この項目で内容を示唆する写真や図を挿入するのが望ましい。

■トビタテ側からの条件 【自由記述】※様式自由

以下の4項目について自由記述してください。

- ①留学によってどんな自分になりたいのか
- ②困難を克服した経験
- ③トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラムに対して自身が貢献できると考えること。
- ④その他アピールできるポイント

※A4サイズで2ページ分までとします。
※フォントサイズ11以上とします。
※写真、画像、グラフ等の挿入、貼り付けは自由です。
※PDFデータ形式で提出してください。(作成ソフトは問いません)

【受入れ許可書等】

現時点である場合は、本様式と共にPDFデータ形式で統合して提出してください。
※この自由記述様式及び受入れ許可書等(任意)のデータ容量は学生の応募書類一式が合計2MB以内で収まるように作成してください。

■九大からの書き方アドバイス

① 留学によってどんな自分になりたいのか

1ページ目「(2)留学計画の目的と概要」で述べた「①将来の人物像もしくは目標(どの様に産業界または社会全体へ還元・貢献する人物になりたいのか)」の項目と必ずマッチさせること。1ページで簡潔に述べた内容を更に掘り下げて詳細に述べる。

5期募集要項の2ページ目「3. 求める人材像」(下記参照)のうち、特に(1)と(2)に対応するような内容を述べたい：

- (1) 日本人学生等であって、将来のグローバルリーダーとして、留学を通じて以下に掲げるような素養を身につけようという意欲を有する人材：
 - ・世界の人々との交流を通じた経験から学ぼうとする意欲
 - ・社会のために貢献したいという高い志
 - ・自らの志を具体化するための思考力と行動力
 - ・失敗から試行錯誤しながらも挑戦し続ける強い精神力
 - ・様々なことに好奇心、探究心を有し、未知の領域に対しても果敢に挑戦する姿勢
 - ・集団活動においてイニシアチブをとり、周囲を巻き込む能力
- (2) グローバル企業や国際機関等における活動を始め、世界で活躍したいという意欲、又は日本において日本の良さ、地域の良さを世界に発信し、日本から世界に貢献したいという意欲を有する人材
- (3) 本制度で実施する事前・事後研修や派遣留学生ネットワーク等における教育課題や本制度における諸活動(独自の情報システムを通じた企業や学生等との交流、留学活動の内容や成果を広く社会に発信する活動等)に主体的に参画する人材

② 困難を克服した経験

過去の困難ではなく、「如何に困難を克服し、その経験から何を学んだのか」を主張する場である。

上記(1)に列挙されているいくつかの(全てでなくてもよい)素養(例：失敗から試行錯誤しながらも挑戦し続ける強い精神力)、もしくはその礎となるものを得たエピソードを2-3述べると効果的。

③ トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラムに対して自身が貢献できると考えること

上記(3)の項目に対応する内容を述べる。端的には、トビタテ(文科省)は「帰国後は、海外留学の機運醸成のための普及・啓発(エヴァンジェリスト)活動」に従事もしくは貢献できる人材を求めている為、この点に十分留意して貢献のプラン・ビジョンを考える。

貢献の手段や対象、また考えうる成果をできるだけ具体的に述べる。具体性に欠けると、貢献の意思が弱い、と捉えられる恐れがある。

「短期的貢献=(留学終了後から5年以内くらいにできること)」「長期的貢献=(向こう10~20年ほどでできること)」と期間別に分けるか、「地域レベルの貢献=(在籍校、福岡、九州など)」「全国レベルの貢献」「国際的な貢献」と貢献の手段もしくは対象の範囲別に分けて論じるのも効果的。

「自身の所属学部・府で留学経験をプレゼンし、後輩たちへトビタテへの申請を奨励する」という貢献の仕方はあまりにも一般的なもので、できるだけ避けること。

④ その他アピールできるポイント

「②困難を克服した経験」同様、上記(1)に記載されているいくつかの(全てでなくてもよい)素養、もしくはその礎となる可能性を備えている、という内容を記したい。留学計画とは一切関係ない「こぼれ話」として面白いエピソードや自慢話などをして、審査員に息抜きの機会を与えたとともに、自身を覚えてもらう効果も狙いたい。「①留学によってどんな自分になりたいのか」の項目と同様、この項目でも内容を示唆するような写真や図を挿入するのが望ましい。